

たのしく

4月19日、今年最初の全園行事の「対面式」が、ホールで行われました。入園して、まだ2週間、年少さんも少しずつ園の様子がわかり、涙が少なくなってきました。また、年中さんも年長さんも、新しく入園してきた年少さんのお手本になるような、元気な挨拶や歌などを発表していました。



↑ →先生の話を真剣に聞く年少さん



↑みんなで「むすんでひらいて」を身振りを交えて元気に歌いました。



人は人なか、木は木なか

新年度が始まり、およそ2週間が過ぎました。今月29日(日)は、保育参観、PTA 総会が行われます。しかし、残念ながら、PTA 活動に対して、関心がなかったり、役員のなり手がいないという風潮が見られるようになってきました。そこで改めて、PTA 活動とは、いったいどんな意味があるのでしょうか。考えてみたいと思います。

PTA 活動が息長く順調に進められるためには、言うまでもなく、PTA 会員一人一人の実際の参加がなくてはなりません。しかし残念ながら、どの学校・幼稚園でも、活動の参加については、必ずしも十分ではありません。PTA 活動は、「自分でない誰かがやるもの」と考えている方が多くなってきているのではないのでしょうか。それは「どの子ども、力を合わせて守る」という考え方が少なくなっているからだと思います。

子どもが健やかに成長していくためには、子どもがいろいろな大人と接して学んでいくことが必要です。

「人は人なか、木は木なか」という言葉があるそうです。木は木々の中で、調和をとっていると成長するが、周りの木が切り倒されて調和が崩れ、一本立ち・二本立ちになると、やがて枯れてしまう、つまり木は木の中でこそ、生きて育つのです。人もまた、人の中で育つのです。そこで、「人は人なか、木は木なか」というわけです。このように考えるとPTA 活動にPTA 会員が実際に参加するということは、とても大切なこととなります。PTA 会員という大人の中で、子どもが健やかに育っていくからです。「我が子は、私が守る」という姿勢だけでは、子どもの健やかな成長を望むのは難しいことです。



PTA 活動について「誰かがやる」ではなく、「誰もが、何かができる」という発想が大切です。会員一人一人の少しずつの力を寄せ合って「人は人なか」をつくることです。子どもたちから見て、大人が互いに手を携えて「人は人なか」という姿勢を見せることができれば、子どもたちの成長にどれほど役立つことでしょうか。「誰もが、何かができるPTA 活動」になるといいですね。



↑玄関前にある「こいのぼり」
←玄関ホールにある「五月人形」
《お知らせ》

4月29日(日)は、参観日・PTA 総会です。多数の参加をお待ちしています(5/2が代休となります)。9時15分から30分まで親子登園です。それ以前は園舎に入ることができませんので、ご注意ください。

《お願い》バスバッチ・徒歩バッチの表面に「名前」を書いてください。